

津軽海峡交流フェスタを初開催

遠泳競技の世界7大海峡(オーシャンズセブン)のひとつに選出されている津軽海峡の魅力を発信しようと7月6日(日)、小泊マリンパークで「津軽海峡交流フェスタ」が開催されました。

当日は中里横笛愛好会の囃子演奏や今別町の大川平荒馬保存会による荒馬の披露が行われました。

会場には様々な料理を提供する飲食店も出店し、県内グルメのほか津軽海峡遠泳の到着地周辺自治体から、北海道福島町にもブースを設置していただきました。



フェスタのオープニングを飾ってくれた中里横笛愛好会の元気あふれる囃子演奏。一気に会場がにぎやかになりました。



翌7日に津軽海峡遠泳のリレースイムに挑戦したアスリート集団(通称：おじさんズ) 惜しくも完泳とはなりませんでした。次の挑戦をお待ちしています!!



北海道を中心に活躍する講談師 荒到夢形氏による講談。普段なかなかお目にかかれない講談師の語り口に会場は聞き入っていました。



猛暑も吹き飛ばすような迫力ある大川平荒馬保存会の荒馬。披露が終わると、会場からはアンコールの声が飛び交いました。



中泊メバル料理推進協議会の中畑会長と、水産商工観光課鈴木メバラーのお料理講座。往年の名コンビによる掛け合いで、会場は笑いに包まれました。

ほかにも自衛隊車両展示やポニーふれあい広場、B&G サップとカヌーの体験など、イベント盛りだくさんでした。

(B&Gの体験の様子は、本誌20ページにも掲載しています。)

多様なパネリストが津軽海峡の魅力を語る

「オーシャンズセブン～津軽海峡の魅力」と題したパネルディスカッションでは、津軽海峡に面する自治体と水泳連盟関係者、津軽海峡遠泳経験者がそれぞれの視点から津軽海峡の魅力を熱弁しました。

津軽海峡遠泳アドバイザーの石井晴幸さんは「遠泳はどこの海を泳いでも同じということではなく、挑戦するにふさわしい『ひのき舞台』がある。津軽海峡はその舞台になれる場所だ」と語りました。

日本水泳連盟の遠泳競技強化戦略スタッフで元オリンピック選手の貴田裕美さんも特別ゲストとしてパネリストに加わり「津軽海峡はまだ泳いだことがない。この交流フェスタを機会にチームを組んでリレー形式で挑戦してみたいのでお誘い待っています。」と意欲を見せていました。



北海道福島町長
鳴海 清春



中泊町長
濱館 豊光



(一社)青森県水泳連盟会長
前田 清



日本水泳連盟
貴田 裕美



津軽海峡遠泳アドバイザー
石井 晴幸



津軽海峡交流PR大使
尾迫千恵子

